

# ABA の基本概念

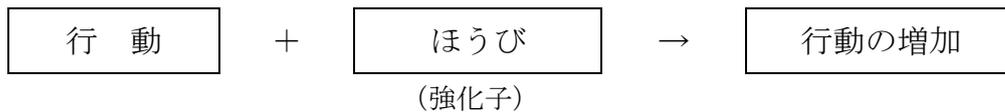
2018.7.8 名古屋定例会

藤坂龍司

## 1. 行動の基本原則

### ①正の強化

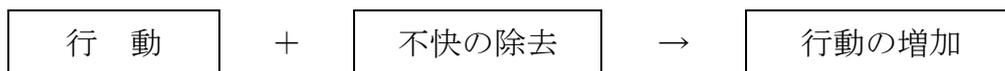
何らかの行動の直後に、ほうびとなる刺激（強化子）が伴うと、以後、その行動は増加する。



例：手の込んだ料理を作る + おいしいと言われる → よく手の込んだ料理を作るようになる

### ②負の強化

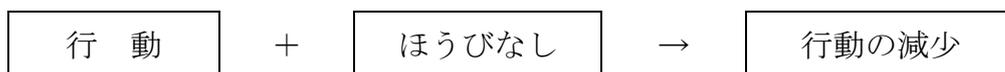
何らかの行動の直後に、不快な刺激が取り去られると、以後、その行動は増加する。



例：頭痛薬を飲む + 痛みが和らぐ → 頭痛がするたびにその薬を飲むようになる

### ③消去

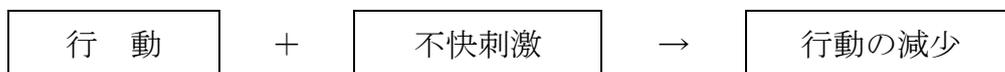
行動の直後に、ほうびが与えられないと、その行動は減少する。



例：手の込んだ料理を作る + 何も言われない → 手の込んだ料理を作らなくなる

### ④積極的罰（正の弱化的）

何らかの行動の直後に、不快な刺激が与えられると、以後、その行動は減少する。



例：夜遅く帰る + 叱られる → 門限を守るようになる

### ⑤消極的罰（負の弱化的）

何らかの行動の直後に、ほうびが取り去られると、以後、その行動は減少する。



例：荷物から目を離す + 荷物を盗まれる → 荷物から目を離さなくなる

このように人の行動は、そのあとに何が起こるか、によってその後の起こり方が変わってくる。

適切な行動に対しては本人の喜ぶ刺激を与えて強化し、不適切な行動に対してはほうびを与えないことで消去したり、代わりの適切な行動を強化すること（DRO）が基本となる。

## 2. 行動の前の出来事

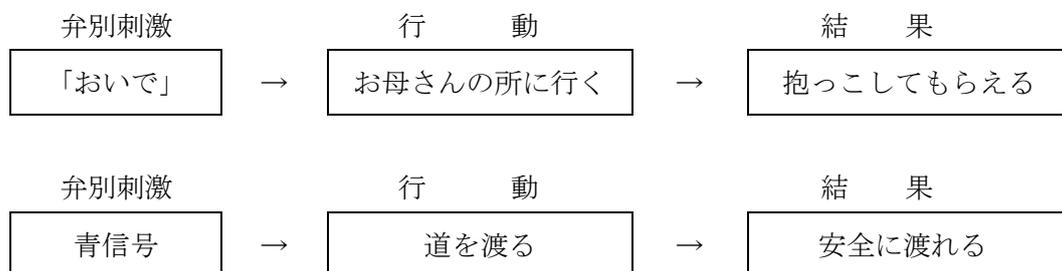
### (1) 弁別刺激

では行動の前の出来事は、行動にどんな関係があるのだろうか。

行動の前の出来事が、行動を引き起こしているように見えることがある。例えばお母さんが子どもに「おいで」と言うと、子どもがお母さんのところに行く。信号が青になると、人は信号を渡る。

しかし事前の出来事（これを「先行刺激」という）が行動を引き起こすためには、そのあとに強化が伴わないといけない。いまの母子の例では、お母さんの「おいで」に対して子どもがお母さんのところに行ったとき、お母さんがよく抱っこしてあげるなど、やさしくかまってあげれば、子どもはお母さんの「おいで」によく反応するようになるだろう。しかし子どもが来ても無視しているようなら、子どもは来なくなるだろう。

このようにある先行刺激の後のある行動が特に強化される、ということを繰り返すと、その先行刺激がその行動を引き起こす力を持つようになる。このとき、行動を引き起こす力を持つようになった先行刺激のことを「弁別刺激（discriminative stimulus, S<sup>D</sup>）」という。また弁別刺激が行動を引き起こす力を持つようになることを「刺激コントロール」（刺激性制御）という。子どもの「お母さんのところに行く」という行動は、お母さんの「おいで」という声の刺激の刺激コントロールの下に服している。



ABAセラピーの多くの時間は、いかにして子どもの行動を適切な弁別刺激のコントロールの下に置くか、に捧げられている、と言っても過言ではない。例えば物の名前付けの時には、大人が「りんご」と言ったとき、りんごにさわると、という行動を引き起こそうとする。最初は大人が「りんご」と言った後、子どもはバナナに触ったり、自分の鼻をさわったりするだろう。しかしそれらの行動は強化せず（消去し）、りんごに触る、という行動だけを強化する。すると子どもの中で学習が起こり、徐々に「りんご」という言葉に対してりんごに触る、という行動が確実に起こるようになる。これを弁別学習という。

### <刺激コントロールの転移>

子どもに新しいことを教えるとき、最初は指示の後にプロンプトをして正解させ、強化する。この段階では多くの場合、プロンプト刺激が弁別刺激になっている（物の名前付けにおける指差しなど）。これを、本来の指示に子どもが反応するようにするためには、指示と同時に直後にプロンプト刺激を出し、正反応を強化しながら、徐々にプロンプト刺激をフェーディングしていく必要がある。そうす

ると、これまでプロンプト刺激が行動を引き起こす力（刺激コントロール）を持っていたのが、徐々に本来の指示にその力が乗り移る。この現象を「刺激コントロール（刺激性制御）の転移」という。

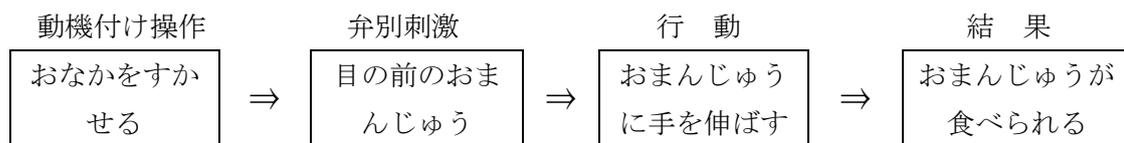
### 3. 動機付け操作

行動に影響を与える事前の働きかけは弁別刺激だけではない。

目の前のおまんじゅうは、そのおまんじゅうに手を伸ばす、という行動を引き起こす。このときおまんじゅうは弁別刺激である。

弁別刺激	行 動	結 果
おまんじゅう	→ おまんじゅうに手を伸ばす	→ おまんじゅうが食べられる

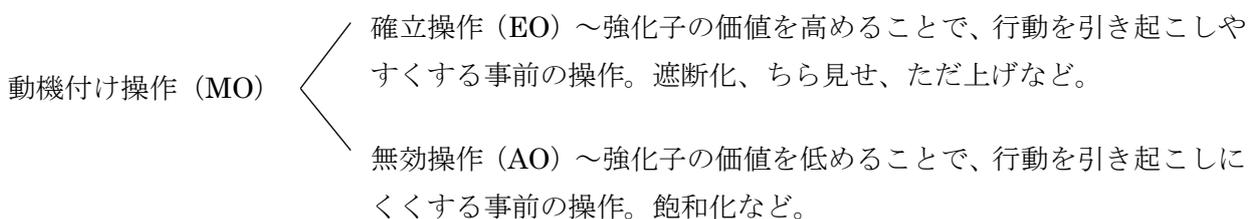
しかし目の前のおまんじゅうはいつも「手を伸ばす」という行動を引き起こすわけではない。おまんじゅうが、手を伸ばす、という行動を引き起こすためには、その人がある程度おなかをすかせている必要がある。言い換えれば、その人におまんじゅうに手を伸ばさせようと思ったら、あらかじめその人をお腹にしておく必要がある。これを強化子の「遮断化」という。



強化子を遮断化すると、その強化子の価値が高まる。その結果、その強化子を求める行動が起こりやすくなる。これを「確立操作」(establishing operation, EO) という。

逆に事前におなか一杯にしておく（これを「飽和化」という）、おまんじゅうという強化子の価値が下がり、おまんじゅうを求める行動は起きにくくなる。これを「無効操作」(abolishing operation, AO) という。

そして確立操作と無効操作を合わせて「動機付け操作」(Motivating operation, MO) という。



適切な行動を引き起こすためには、確立操作を使う。例えばセラピーでお菓子を強化子にするのなら、おなかをすかせている必要があるし、おもちゃを使うのなら、そのおもちゃをセラピー以外では隠しておいた方がよい。

逆に問題行動を押さえるためには無効操作（飽和化）が使える。例えば問題行動が、周囲の人の注目が強化子になっている場合、問題行動を起こす前からどんどん声かけをして注目してあげると、飽和化を起こし、その問題行動を起こしにくくなる。これを「NCR（非随伴強化、noncontingent reinforcement）」という。